

平成20年度文部科学省「全国学力・学習状況調査」(平成20年4月22日実施)

～結果分析と今後の対策～

江戸川区立瑞江中学校

【学習状況調査から】

本校生徒の実態として、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか。」「将来の夢や目標を持っていますか。」などの質問項目で、全国や都の平均を上回って肯定的に答えていた、一方、家庭での学習や読書についての質問項目は平均を下回っていたが、これは、家庭でのテレビゲームや携帯電話での通話・メールが平均を上回っていることが原因と考えられ、生活リズムの改善を図る必要性が感じられる。

【国語】

・以下のグラフは、調査の結果である。

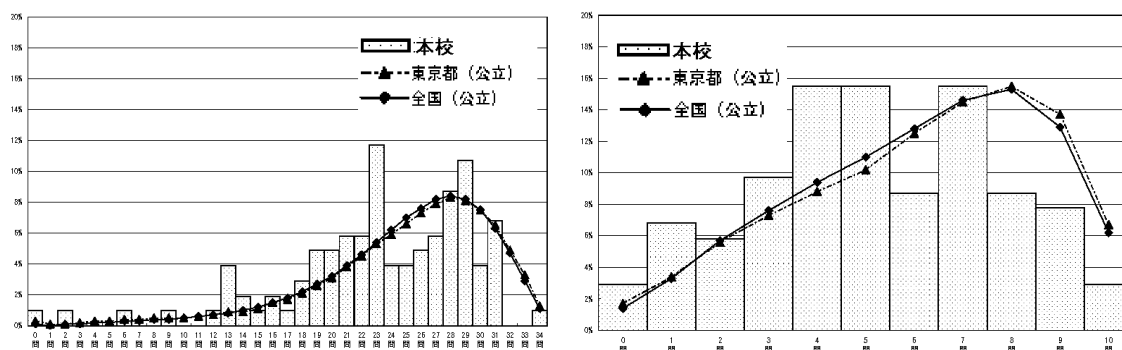


図1 正答数分布グラフ (左) 主として知識 (右) 主として活用

1. 結果分析

本校の生徒は、全体的に知識・活用とも全国や東京都の平均を若干下回っていた。「主として活用」にあるような問題には戸惑っていた。特に「論理に即して内容を読み取る問題(2問)」や「辞典で調べたことをもとにした問題(3問)」は、正答率が他の問題に比べて平均を大きく下回っていたので、この点が今後の課題である。

2. 今後の対策

- ①問題文を正確に読み取ること、設問の意図を正確に捉えて答えを導き出すことに慣れていないので、練習問題を多く取り入れて問題形式に慣れさせる。
- ②辞典の活用する機会を増やして辞典の使用法を習熟させるとともに、漢字の読み書き・熟語・ことわざ・故事成語などの語彙力を高める。
- ③文法については1・2年の学習内容をしっかりと復習する機会を設ける。
- ④話し合い活動や自分の思いや考えを書く学習を頻繁に取り入れて、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の力を高めていく。

【数学】

・以下のグラフは、調査の結果である。

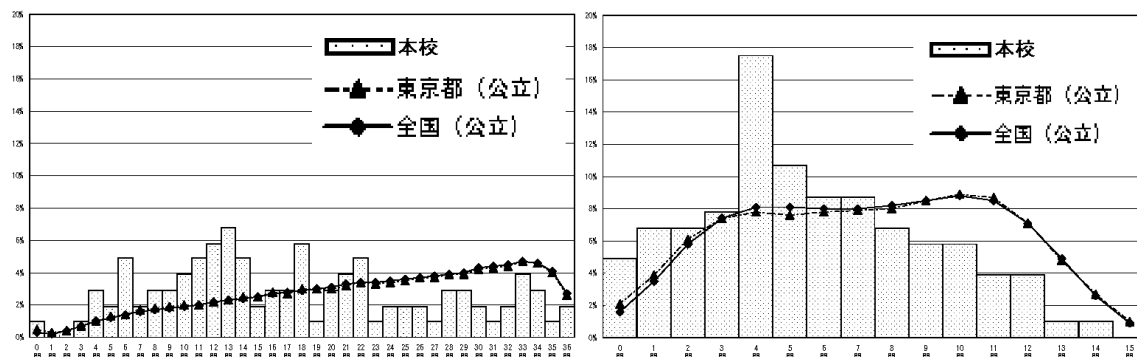


図2 正答数分布グラフ (左) 主として知識 (右) 主として活用

1. 結果分析

残念ながら本校の生徒は、全体的に知識・活用ともに、全国や都の平均を下回っていた。以下、知識・活用ともに見解を述べる。

<知識>

数量分野では、目的に応じて等式を変形したり、代入したりする処理を苦手としていた。また、関数全般について正答率が低かった。表から式を求めたり、グラフを読み取ったりする力が弱かった。図形分野では、昨年同様、空間図形に対する具体的なイメージを描く力が不足していた。

<活用>

証明問題は、全体的に苦手としていた。問題の意味をしっかりと理解して、数学的に説明したり、根拠となる事柄を筋道立てて考えたりすることができなかった。

2. 今後の対策

- (1) 計算ワークを用いて、等式の変形・代入・方程式といった基本的な問題を日々、家庭学習させる。また、授業前に簡単な計算テストを適宜行っていき、基礎学力の定着を図る。
- (2) 関数分野では、表・式・グラフの関係をしっかりと把握させるような指導を心掛ける。
- (3) 図形では、教具をさらに充実させ、具体的なイメージを描かせるように指導に工夫する。
- (4) 土曜学習教室等で、苦手分野ごとの学習を行い、しっかりと補充していく。